

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第2区分

【発行日】平成19年9月27日(2007.9.27)

【公開番号】特開2006-80383(P2006-80383A)

【公開日】平成18年3月23日(2006.3.23)

【年通号数】公開・登録公報2006-012

【出願番号】特願2004-264339(P2004-264339)

【国際特許分類】

H 01 L 33/00 (2006.01)

【F I】

H 01 L 33/00 N

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月15日(2007.8.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

発光層を含む発光ダイオードベアチップと、前記発光ダイオードベアチップの外表面を覆った透光性材料とを備えた発光装置であって、

前記発光装置の表面には示温性材料からなる認識可能マークが設けられ、前記認識可能マークの温度は、前記発光層の温度との間に一定の相関関係を有していることを特徴とする発光装置。

【請求項2】

前記相関関係は、前記認識可能マークの温度と前記発光層の温度との1次関数の関係である請求項1に記載の発光装置。

【請求項3】

前記認識可能マークは、前記発光装置の発光面側に配置された請求項1又は2に記載の発光装置。

【請求項4】

前記認識可能マークには、透光性材料で被覆がされている請求項1～3のいずれかに記載の発光装置。

【請求項5】

前記認識可能マークが、温度測定指定部である請求項1～4のいずれかに記載の発光装置。

【請求項6】

発光層を含む発光ダイオードベアチップと、前記発光ダイオードベアチップの外表面を覆った透光性材料とを備えた発光装置の温度検出方法であって、

前記発光装置の表面に設けられた認識可能マークの温度と前記発光層の温度との間に成立する一定の相関関係に基づいて、前記認識可能マークの温度を測定することにより、前記発光層の温度を検出することを特徴とする発光装置の温度検出方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

本発明の発光装置は、発光層を含むＬＥＤペアチップと、前記ＬＥＤペアチップの外表面を覆った透光性材料とを備えた発光装置であって、前記発光装置の表面には示温性材料からなる認識可能マークが設けられ、前記認識可能マークの温度は前記発光層の温度との間に一定の相関関係を有していることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 8 】

また、本発明の発光装置の温度検出方法は、発光層を含むＬＥＤペアチップと、前記ＬＥＤペアチップの外表面を覆った透光性材料とを備えた発光装置の温度検出方法であって、前記発光装置の表面に設けられた認識可能マークの温度と前記発光層の温度との間に成立する一定の相関関係に基づいて、前記認識可能マークの温度を測定することにより、前記発光層の温度を検出することを特徴とする。